

あなうさピーターのはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え

おおくぼ ゆう やく

あなうさピーターのはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え
おおくぼゆう やく





むかしむかし あるところに 4ひきの こうさぎが おりました。 なまえは それぞれ

フロプシー、
モプシー、
カトンテル、
ピーターです。

4ひきは おかあさんと いっしょに とってもおおきな モミのきの したにある
あなのなかに すんでいました。



あるひの あさ、 あなうさママが いいました。

「さあ おまえたち、 のはらのなかや こみちのさきで あそんでらっしゃい。
でも、 マグレガーおじさんの おにわには いっちゃダメよ。 むかし おとうさん
が そこで ひよんなことから マグレガーおばさんに つかまって パイに された
んだから。」



「いってらっしゃい、 きを つけるのよ。 おかあさん、 るすに してるから。」



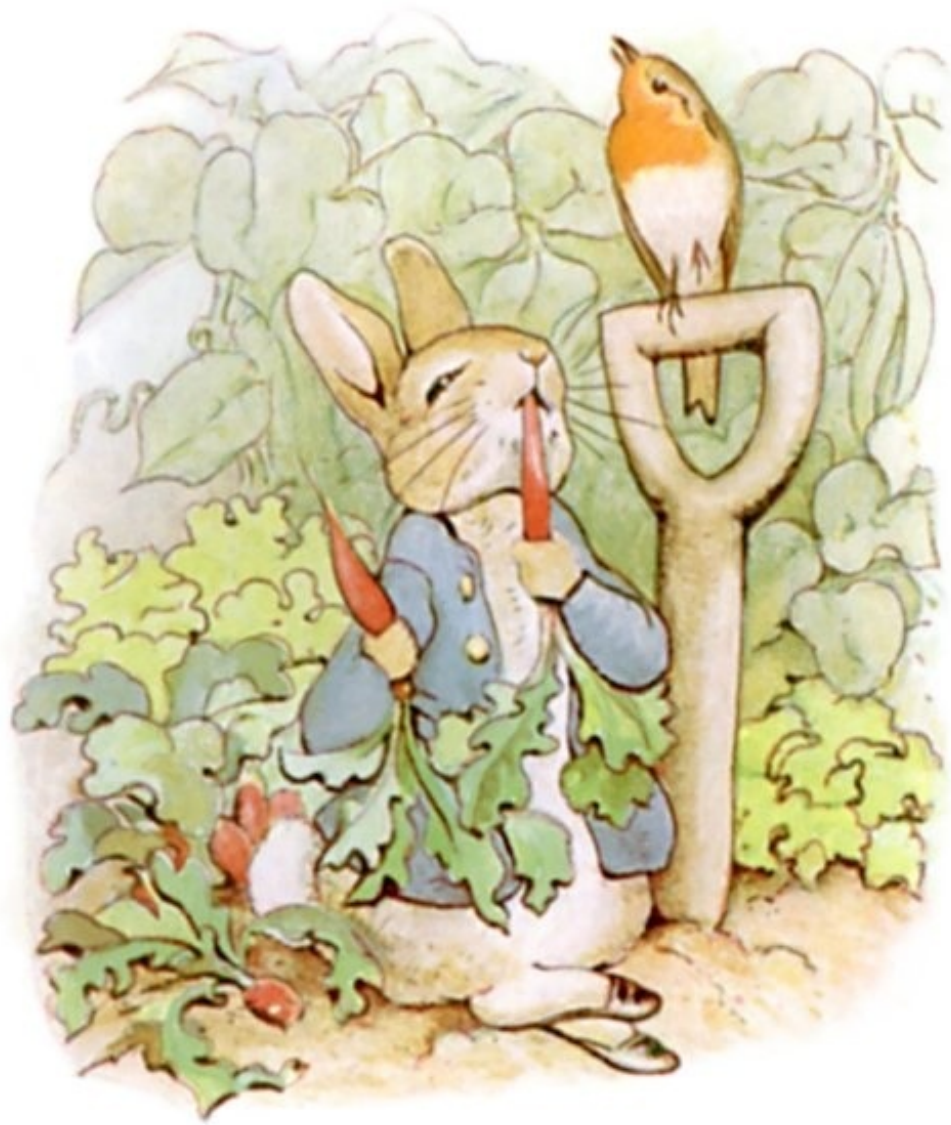
それから あなうさママは かごと かさを てにもって、 もりの むこうの パンやさんへ むかいました。 かったのは 1きんの しろパンと ぶどうパンを 5つです。



フロプシーと モプシーと カトンテルは とっても いいこでしたので、こみちを ぐだって キイチゴつみに でかけました。



けれども ピーターは ひどく やんちゃでしたので、 そのまま マグレガーおじ
さんの おにわに いちもくさん、 いりぐちの さくの したを くぐりぬけたの
です！



すぐさま レタスと インゲンを かじって おまけに ハツカダイコンまで。



すると どうも きぶんが わるくなったので おくすりの パセリを さがすこと
に しました。



ところが キュウリの なえばこを まわったところで でくわしたのが、 なんと
マグレガーおじさん！



マグレガーおじさんは よつんばいで キャベツのなえを うえていたのですが、とびあがって ピーターを おいかけます。くわを ふりふり さげぶのです。「
まてえ、ぬすっと！」



ピーターは もう びっくりして ふるえあがって にわじゅうを かけまわりま
した。 それというのも いりぐちが どこにあったのか わからなくなったのです。

しかも キャベツばたけで くつを かたっぽ、 ジャガイモばたけで もうかたっ
ぽを なくしてしまいました。



くつも ないので よつあしで はしると ぐんぐん はやくなって、 うまくいけば にげられたと おもうのですが、 うんわるく スグリの あみに つっこんでしまい、 うわぎの おおきな ボタンが ひっかかってしまったのです。 ちなみに あおの うわぎで しんちゅうの ボタンつき おろしたての ものでした。



ぼくは もう しぬんだな、 ピーターは おおつぶの なみだを ながしました。
でも そのなきごえが たまたま やさしい すずめたちにも きこえて、 そして
あわてて そばに とんできて あきらめないでと いうのです。



マグレガーおじさんが やってきて もってきた ふるいを ピーターの うえから かぶせようと しましたが、 ピーターは すんでのところまで かわして うわぎを のこしたまま にげだしました。



そして ものおきごやに かけこんで じょうろのなかに とびこみました。 とってもいい かくればだと おもったのに みずが たくさん はいっているなんて。



マグレガーおじさんには まるわかりでした。ピーターは ぜったい ものおきごやの どこかに いる。もしかすると うえきばちの なかかもしれない。やがて そろりと もちあげて ひとつずつ なかを みるのです。

まさに そのとき ピーターが くしゃみを ——「くしゅん！」 マグレガーおじさんが たちまち ちかづきます。



あしで ふみつけられそうに なりましたが、 ピーターは まどの そとへと とびだして ついでに うえきを 3つ たおしました。 まどが ちいさすぎたので、 マグレガーおじさんも ピーターを おいかけるのを あきらめて のらしごとへもどることに しました。



ピーターは ほっとして こしを おちつけます。 いきも きれぎれ、 からだも
ぶるぶる、 どっちへいったら いいのか ちっとも わかりません。 しかも じ
ょうろのなかに いたので もう ずぶぬれです。

しばらくして うろちょろ しはじめましたが、 とぼとぼ —— とぼとぼ ——
ゆっくりと あるいて きよろきよろ。

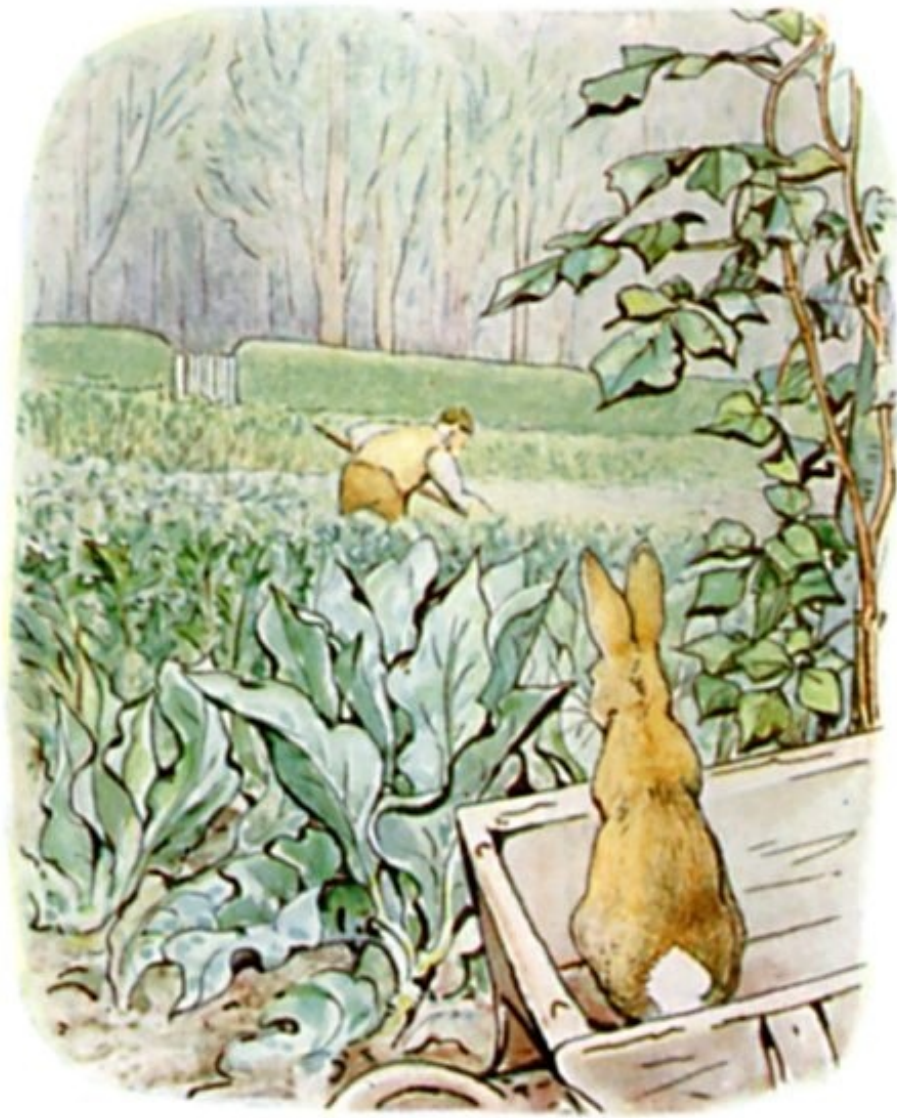


かべに ドアを 見つけましたが、 かぎが しまっていて したを くぐりぬけようにも ぷっくりした こうさぎの とおる すきまは ありません。

おかあさんねずみが いしの とぐちを はいったり だたりして きの中かで まっている かぞくに おまめを はこんでいます。 ピーターは そのねずみに いりぐちへの いきかたを ききましたが、 くちにおおきな おまめを くわえていたので ねずみは なにも へんじが できません。 ただ くびを ふるだけなので、 ピーターは なみだが でてきました。



それから おにわを つきつて かえりみちを さがそうと しましたが、 よけいに まよってしまいました。 やがて マグレガーおじさんが みずくみをする ためいけのところへ たどりつきます。 しろい ねこが きんぎょを じっと にらんでいて ぴくりとも うごきませんが ときたま しっぽの さきが いきているみたいに くねくねと していました。 ピーターは そっとしておくのが いちばんだとおもいました。 いとこの ばにばにベンジャミンくんから ねこのことは きいていたのです。



ものおきごやに もどろうとすると いきなり すぐそばから くわの おとが きこえてきました。 さっくり、 さくさく、 さっくり。 ピーターは しげみのしたを あたふたと はしりまわります。 けれども なんということも ないので すぐに でていって ておしぐるまの うえへ のぼり ようすを うかがってみました。

まず みえたのが タマネギばたけを たがやす マグレガーおじさん、 ピーターには せなかを むけていて なんと そのむこうに いりぐちが あるのです！



ピーターは おとも たてずに ておしぐるまを おりて ぜんそくりよくで はしりだしました。 クロスグリの しげみのうら まっすぐ みちを すすみませす。 かどのところで マグレガーおじさんに みつかりましたが ピーターは かまいません。 いりぐちのしたに すべりこんで とうとう にわのそと、 もりに はいれば あんぜんです。



マグレガーおじさんは ちいさな うわぎと くつを ぼうに ひっかけ からすよ
けの かかしに しました。 ピーターは そのままずっと はしりっぱなしで ふり
かえることもなく おおきな モミのきの おうちまで かえりました。



もう くたくたなので うさぎあなの ふかふかした やわらかい つちの じめんに ねっころがると まぶたが すぐにおちます。 おかあさんは おりょうりの さいちゅうで てが はなせませんでした、 みにつけていたものは どうしたのか しらと くびを かしげました。 つい このあいだも うわぎと くつを なくした っていうのに。



なんといったら いいのか、 ピーターは そのひの ばんは ずっと ぐあい
がよくありませんでした。 おかあさんは ベッドに ねかしつけ カモミールの おち
やを つくってあげました。 ピーターへの おくすりと いうわけです！
「ねるまえに おおさじいっぱい のむこと。」



かたや フロプシーと モプシーと カトンテルは ばんごはんに パンと ぎゅうにゅうと キイチゴを たべました。

(おしまい)

Original Text: *The Tale of Peter Rabbit* (1902)

Original Author: Beatrix Potter (1866-1943)

※著作者の死後および著作公表後61年がすでに経過しているため、
この作品を日本国内におけるパブリックドメインとして利用しております。
もし何か問題があるようでしたらご指摘の方いただけると幸いです。

あなうさピーターのはなし

<http://p.booklog.jp/book/32093>

著者：ベアトリクス・ポッター

訳者：大久保ゆう

発行：ALZ

発行元情報：<http://p.booklog.jp/users/alz/profile>

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」
(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。
上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/32093>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/32093>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.